

# 第9回双葉町復興まちづくり委員会 議事録

- 1  
2  
3 ■日時 : 平成25年2月6日(水) 午後1時00分～午後3時00分  
4 ■場所 : 双葉町役場埼玉支所 4階家庭科室  
5 ■出席者 : 双葉町復興まちづくり委員会委員  
6 事務局(双葉町企画課)

7 (参照: 第9回双葉町復興まちづくり委員会座席表)

## 8 1. 開会

### 9 【三井所 清典 委員長】

10 今日は特に雪が降って足元、交通機関もいろいろが遅れたり、無くなったりしているところで、  
11 お集まりいただきましてありがとうございます。遅れている方もそういう事情だと思います。ど  
12 うもありがとうございました。今日は、調査データの速報という形で、分析はこの大方、相関分  
13 析というような観点、詳しい分析が続きますが、今日はそこのお話をお伺いし、7000人の復興  
14 会議の分厚いデータがきましたので、じっくりあとで目を通していただいて、気持ちを理解して  
15 いただきながら復興計画に入れていきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いい  
16 たします。

## 17 2. 議事

### 18 (1) 双葉町住民意向調査 調査結果(速報版)の報告について

#### 19 【三井所 清典 委員長】

20 それでは、まず、復興庁から資料2「双葉町住民意向調査速報版」について説明いただきたい  
21 と思います。よろしくお願いいたします。

#### 22 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

23 復興庁の真鍋でございます。私の方から、今回実施させていただきました双葉町住民意向調査、  
24 こちらの結果の方、速報という形で取りまとめましたので、本日ご報告をさせていただきます。

25 資料は、資料番号の2番、全部で16ページでございます。こちらに調査項目の中から抜粋して  
26 主なものを掲載させていただいております。今回実施させていただきました住民意向調査でござ  
27 いますけれども、実施しました調査の概要を1ページ目の一言目に記載してございますけれども、  
28 対象といたしましては、中学生以上の町民の方皆様に調査票をお配りしてございます。昨年12  
29 月20日に発送いたしまして、1月8日回収ということで、その後も、調査票が遅れて届いてく  
30 るところもございますので、極力そのところも反映させながら集計をさせていただいております。  
31 回収率でございますけれども、3,710名の方からご回答いただいております。お配りしてありま  
32 すのは6,923名の方ですので、約59%、ほぼ6割という形の回収率でございます。調査票でご  
33 ざいますけれども、町民の皆様には、お手元に届いていると思いますけれども、一般向けと中高  
34 生向けという形で、中高生の方には調査項目を一部抜粋してお聞きする形でとってございます。  
35 なかなか中高生の方にはご回答が難しいという設問もございましたので、中高生の方には一部回  
36 答していただかない、一部のみ抜粋した形の調査票を併せてお付けして、そちらの方をご回答い  
37

38 ただくような形になってございます。その回収数の 3,710 名のうちの、今申しました中高生の方  
39 からは 212 名の方からご回答いただいております。残りの 3,498 名が中高生以外の一般の方とい  
40 う形になっています。以下その集計表がございませけれども、設問番号のところが一  
41 う形で書いてございませけれども、これはそういった趣旨でございませ。一般の方には約 40  
42 問程設問を設けておりますけれども、中高生の方には一部抜粋しておりますので、設問番号が異  
43 なっているというところございませ。今回速報版という形ですので、約 40 問程、先程、設問  
44 を設けておるとい説明申しませけれども、その中から特に今後の復興まちづくり委員会で議  
45 論していただく中で、必要となってくると思われる項目、こちらを抜粋しております。約 7 割の  
46 30 問程今回抜粋しております。こちらも今回記載しております。こちらの資料、順番が逆にな  
47 ってしまいましたけれども、昨日集計の方が終わりました、昨日復興庁の方から公表と併せて、  
48 双葉町の方からもホームページに掲載していただいております。本日お配りしております資料は、  
49 それと全く同じもの、日付が 2 月 5 日となっておりますけれども、これは昨日公表したという  
50 ところで昨日の日付になってございませ。

51 まず、1 つ目でございますけれども、該当者の属性というところで、性別と年齢というところ  
52 で、それぞれご回答いただいたものを記載しております。性別につきましては、若干女性の方が  
53 多くなっておりますけれども、ほぼ半分。年齢につきましては、年代別にそれぞれの回答者数  
54 書いておりますけれども、おおむねその国勢調査やその他自治体ごとの住民の方々の年齢構成に  
55 応じた割合になっているのだと、各世代からまんべんなくご回答いただいているのではないかと、  
56 10 代 20 代の方が少なめかなという気はしますけれども、おおむね全ての年代の方々からそれぞ  
57 れご回答いただいているのではないかと思います。

58 続きまして、ページをめくっていただきまして、2 ページ目でございます。こちらが、震災発  
59 生当時、震災前の状況がどうだったかというところで、特にお仕事についてここではお聞きして  
60 ございませ。こちらグラフが 2 つございませけれども、上の方が「どういった職業であったか」  
61 というところでお聞きしております。回答としましては無職の方というのが一番で 3 割くらい  
62 らっしゃいますけれども、お仕事をお持ちだった方の中では、会社員の労務、生産労務と言いま  
63 すか、作業員というか、そういったところに携わっている方が 2 割、一番多くなってございませ。  
64 全体としましては、職をお持ちだった方は、下に記載しておりますけれども、62.2%の方がお仕  
65 事を震災当時お持ちだったと回答になってございませ。そのお仕事をお持ちだった方の業種で  
66 ございませが、そちらが下のグラフになっております。その中では、最も多い回答は、ちょっと濃  
67 い目の水色の、真ん中あたりにございませけれども、卸・小売り・飲食・サービス業というところ  
68 で、こちら 24.2%、一番多く回答をいただいております。次は建設業で 16.6%、左から 2 つ  
69 目でございますけれども、こちらが次のご回答としては多くなってございませ。続きまして 3 番  
70 目、現在の避難されている状況に移らせていただきます。こちら現在の避難先というところで、  
71 2 ページの一番下のところございませけれども、現在の避難先がどちらの市町村であるかとい  
72 うところをお聞きしたところございませ。いわき市、これが 2 割程ということで最も多くな  
73 っておりまして、その後、加須市、こちらの加須市がオレンジ色でございませが、10.7%、その後、  
74 福島県内の郡山市 10.4%という割合になっておりまして、福島県内が約半数強、54.3%という形  
75 でご回答いただいております。

76 続きまして、右側のページでございますけれども、現在のお住まいの所有形態、建て方。所有  
77 形態というのはどういう種類の住宅か、あとは、建て方、集合住宅なのか戸建てであるのかとい  
78 うところをご回答いただいております。所有形態でございますけれども、約半数の方がみなし仮  
79 設、薄い緑色で、50.6%の方がみなし仮設住宅にお住まいであると。応急仮設住宅が左側の 11.1%  
80 でございますので、仮設住宅・応急仮設合せますと約 61.7%、6 割強の方が現在仮設住宅等にお  
81 住まいになっているということでございます。この中で仮設住宅、応急仮設とみなし仮設と、そ  
82 れから避難所を除いた方々に、その住宅の建て方、こちらをお聞きしたのが下のグラフでござい  
83 ます。そのいわゆる賃貸住宅や持ち家等そういったところにご回答いただいた方に住宅の建て方  
84 をお聞きしております。その中では、約半数強、集合住宅が 52.2%、半数強になっております。  
85 その下で (3) でございますけれども、現在の避難状況、こちらをお聞きしてございます。世帯  
86 でまとまっておられるか、分散されているかというところをお聞きしたもので、約半数の方は元  
87 の世帯でまとまって避難されている。4 割くらいの方は複数個所に分かれてお住まいになる、と  
88 いうご回答をいただいております。

89 ページをめくっていきまして、4 ページ目でございます。こちらが現在のお仕事、先程の震災  
90 発生当時のお仕事をお聞きしておりますけれども、それと比較した表をこちらに付けております。  
91 グラフが 2 つございますけれども、上から震災発生当時、先程も 2 ページのところに出てきたグ  
92 ラフでございますけれども、そちらと現在とを比較できるようにしてございます。それを見比べ  
93 ますと、先程会社員労務の方が、職をお持ちの方の中で一番多いということですが、全体  
94 的に現在仕事をされていないという方が増えている中で、特に自営業の方が大きく減っていると。  
95 自営業の方は下の方では、区分を 2 つに分けてございまして、自営の中でも、いま継続中とか再  
96 開済みの方と、あとは自営業でも休業中という方も自営業ですので、仕事があるという形でこ  
97 らの方では含めて掲載しております。ですので、自営業の方 2.0%と 3.5%合せて 5.5%の方が自  
98 営業となつてございますけれども、元の 14.2%から比べますと半数以下ということで大方割合と  
99 してはここが一番減っているところでございます。続きまして下の (5) でございますけれども、  
100 そのお仕事に関係いたしまして、現在と震災発生当時のお勤め先が同じであるか、異なっている  
101 かをお聞きしたものでございます。こちら残念ながら無回答という方が 4 分の 1 くらいいらっし  
102 ゃったのですが、それを除いた中ではだいたい同じとそれから違っているという方はおお  
103 むね 2 : 1 ぐらいの割合でご回答いただいております。

104 続きまして、5 ページ目でございます。お仕事に関係いたしまして、現在仕事をされていない  
105 方について、お仕事を今お探しであるかどうかというところをお聞きしてございます。その中で、  
106 濃い青の所でございますけれども、今お仕事を探しているところであるという方が約 15%おら  
107 れると、7 割くらい 68.9%の方は現在探しておられないというところでございます。探してお  
108 られない理由が何であろうかというところを併せて集計してございます。この仕事を探してない  
109 という方を対象にその下の帯グラフでございますけれども、どういう理由から今探されていない  
110 かというところをお聞きしてございます。その中では一番回答が多いところは真ん中あたりのグ  
111 レーの所でございますけれども、年齢的に困難、高齢であるというところが非常に多い。あとは  
112 専業主婦であったり、あとは震災前からすでに退職しているという形で、震災に関わらず元から  
113 仕事をされてなかったとか、高齢であるという方が多いというところがあります。続きまして、

114 下の(7)でございますけれども、現在避難されている中で、お困りのことであるとか、改善を  
115 求める分野、こちらをお聞きしてございます。こちらの選択肢を設けまして、その中から3つま  
116 でご回答いただいています。その中から上位から順番に並べたのがこちらのグラフでございます。  
117 一番多いのはお住まいのところでして、住宅、住環境、それから居住地とか移転先とか特にお住  
118 まいことに関しては57%、6割弱の方がご回答されております。その次は生活費とか住宅ローン  
119 とか金銭面でお困りだということが4割強となっております。3番目は家族が、先程も分散状況  
120 等お書きしましたけれども、そういった家族もその分散状況等がいつも困っているという方が、  
121 全体の約3分の1、33%の方がご回答されていると、こちらが上位からの3つとなっております。  
122 その後、約4分の1の方ですけども、情報であるとかコミュニティ、そういった他人とのつなが  
123 りであるとか、情報の入手の困難なところをご回答されているというところがございます。

124 続きまして、ページをめくっていただきまして6ページでございます。こちらからが次の今後  
125 のこと、生活のことについてお聞きしている内容でございますけれども、当面の生活拠点の条件  
126 についてというところで、今後、避難生活を続けていただく中で、どういった生活場所を選択す  
127 る中での条件を重視されるかというところを各種並べまして、その中から3つまでご回答いた  
128 いたものがこちらの表でございます。一番多いのがやはり放射線量が十分に低いというところを  
129 条件として出されている方が多い、約4割弱の方でございます。それとほぼ同じですけども、  
130 住宅の建て方と言いますか、住まいの形態が希望通りのものであること、そういったものが確保  
131 されることというところを書かれている方が同じくらい、約4割弱となっております。その後、  
132 ほぼ同じでございますけれども、3割くらいの方が医療機関、あとは先程も分散とかありました  
133 けれども、家族と一緒に住めると、または近くに住めるところと、なるべく近くで住めるような  
134 環境というところを重視されるという回答をいただいております。

135 続きまして7ページに移らせていただきます。同じく、避難期間中のお住まいの形態でござい  
136 ますけれども、避難先での形態と建て方と、同じように、当面避難されている間の形態とか建て  
137 方の希望についてもお聞きしております。まず形態でございますけれども、一番多い割合といた  
138 しましては持ち家という形で約44%の方がご自身またはご家族が所有されると、買われる、と  
139 いうところがございます。左側の濃い緑と薄い緑の、こちらのどちらも賃貸住宅でございますけ  
140 れども、薄い緑色の公営住宅、公的なところ、県であるとか町であるとかそういった公的な機関  
141 が建てる住宅、こちらの希望が23.9%、民間の賃貸住宅こちらをお借りする方が21.8%ですの  
142 で、賃貸住宅これ両方合わせますと約45.7%となりますので、持ち家とほぼ同じくらいの割合か  
143 と思います。続きまして、その住宅の建て方でございますけれども、こちらはもう非常に大きい  
144 割合で7割くらい、元々のお住まいが、恐らく一戸建てが多かったということもあろうかと思  
145 いますけれども、一戸建てを希望される方が7割くらいという結果になってございます。

146 続きましてページをめくっていただきまして8ページ。ここからが仮の町に関する設問になっ  
147 てございます。8ページ5番、(1)でございますけれども、仮の町ができた場合、そちらに移転  
148 することを希望されるかどうかというところで、選択肢としては3つ設けてございます。まずは  
149 強く仮の町に移り住みたいという選択肢、逆に仮の町ができて仮の町に住むつもりはないとい  
150 う選択肢、その間の現時点では判断できない、仮の町が具体化すれば検討したいという選択肢  
151 の3つに分けてございます。その中で全体といたしましては、仮の町に移り住みたいという方は

152 6.7%という結果になってございます。逆に仮の町ができて移り住むつもりはない、一番右から  
153 ら2つ目、無回答がございまして、右から2つ目でございますけれども、42.8%の方は移り住  
154 むつもりはないというご回答でございまして。ただ一方で現時点では判断できないという方が  
155 45.5%と、ここが一番多くなっておりますので、具体的な施策を待っておられるという方が非  
156 常に多いという結果かと思っております。こちらの結果につきましては、クロス集計と言いまして、年  
157 代別に集計した場合どうなるかというところを併せて集計しております。一番最初のところで年  
158 代別の構成という形でお示ししましたけれども、同じようにこちらそれぞれ年代別に意向はど  
159 うかというところを集計したものでございまして。上から10代20代から一番下は70代までそれ  
160 ぞれ分けております。この中で見えてくることは若い世代ほど仮の町に移り住みたいという方が  
161 少なく、逆に移り住むつもりはないという方が多くなるということです。10代20代になります  
162 と5割強、30代でも5割強の方が移り住むつもりはなく、逆に70代以上になりますと3分の  
163 1程の方が移り住むつもりはないという形で年代によってその傾向が変わってくる場所が見え  
164 てくると思っております。その下(2)でございまして、ではその仮の町を整備したときに、移  
165 り住むまでに待つことができるか、現時点から何年程度待っていただけるかと、整備に関しまし  
166 ては時間の要することですので、その待てる期間ということをお聞きしたものが(2)でござい  
167 ます。この中では左から2年以内、3年以内と順番に書いておりますけれども、やはり多いのは  
168 2年以内と36%、4割弱といえますか、3分の1強の方がなるべく早期にということでは2年以  
169 内。次がその3年以内で26.1%、合せて62%、2年以内と3年以内合わせると62%、3分の2  
170 弱、6割強の方が2年3年という形で書かれております。こちら先程同様に年代別で集計した  
171 ものがその下のグラフでございまして。こちらその年代ごとにどれかが多くなっていく、どれかが  
172 少なくなっていくというわけではなく、ちょっと年代による違いというのが、その一様の傾向を  
173 示さないのですけれども、特徴的なのが30代の方が2年以内のなるべく早期ということを目指  
174 まれている。子育て世代なのかちょっとそこはよく分からないのですが、30代のところで、  
175 そのなるべく早期と、2年以内というところが5割弱というところでちょっと突出している傾向  
176 が見られます。

177 続きましては仮の町に関しまして右側のページでございまして、委員会の中でも、仮の  
178 町の場所等を議論されているかと思っておりますけれども、その場所がどこが良いかと調査したものが  
179 こちらでございまして。この場所につきましては、全ての方にお聞きしたわけではなくて、先程の  
180 設問で移り住みたいとか、現時点では判断できないから検討したいという何らかの形で仮の町に  
181 住むことを検討している方に対してのみお聞きしております。その中で複数回答という形で丸は  
182 いくつでも構わないという形でお聞きしたものがこちらでございまして。こちらの回答としまして  
183 は、一番多いのはいわき市。64%ですので、おおむね3分の2の方がいわき市を選ばれています。  
184 その後、郡山市、南相馬市という形で福島県内が約15%、6分の1から7分の1ぐらいで続き  
185 まして、その後、こちら埼玉県加須市、それから茨城県つくば市という順番になってございまして。  
186 この内容につきましては、現在の避難所先によって、これがどう違ってくるかというところを分析  
187 したのが下のグラフでございまして。最初のところで今、福島県内、県外にお住まいの方がおおむね  
188 半々だと申し上げましたけれども、今お住まいの避難先が福島県内か福島県外かというところで  
189 分けてございまして。これは2つずつ書いてございまして、上の青い方が福島県内に現在避

190 難されている方、下の緑色が現在福島県外に避難されている方、それぞれ同じく希望されている  
191 仮の町の希望場所、こちらを集計したものでございます。傾向といたしましては、現在、福島県  
192 内に避難されている方は県内を希望される傾向、県外に避難されている方は、例えば加須とかつ  
193 くぼとか、こちらがみどりのグラフの方が伸びておりますけれども、県外を望まれていると、一  
194 方で特に希望はないというところも緑では多くなっておりまして、ちょっとそのあたり特徴的な  
195 ところというふうに思われます。

196 続きましてページをめくっていただきまして、10 ページになります。こちら仮の町に関しま  
197 して続き設問を設けておりますけれども、設置場所の希望は先程申し上げましたとおりでござ  
198 いますけれども、その場所についてのいわゆるこだわりと言いますか、その場所でなければなら  
199 ないのか、それとも、ある程度条件を満たされれば仮の町に行きたいのかどうかというところをお  
200 聞きしたものがこちらの設問でございます。一番左側、青く囲っておりますけれども、緑色の箇  
201 所 35.5%、これが希望する自治体でなければ仮の町には移り住まないと、自分が希望する町でな  
202 ければならないという方が約 3 分の 1 強の方でございます。次の 3 つでございましてけれども、条  
203 件、これ問 13 と書いておりますけれども、これ今回の資料では 6 ページのところでございます  
204 けれども、今後の生活をされる場所、住まいを選ばれるための条件をお聞きしたところのその条  
205 件、こちらが満たされれば設置される自治体にはこだわらないと回答された方が次の 3 つでござ  
206 います。その中で福島県内、福島県外のこだわりがどの程度なのかというところで 3 つに分類し  
207 ております。まず、自治体にもこだわらないし、福島県内県外にもこだわらないという方が 18.5%。  
208 それから自治体にはこだわらないけれども福島県内でなければならないという方が 29.9%で約  
209 30%。あと、こだわらないけれども福島県外でなければならないという方が 4%。割と県外の方  
210 はどこでもこだわらないというわけではなくて、場所がここでなければならないという方が多い  
211 のではないかというふうに思われます。こういった場所についてこだわらない、自治体にはこだ  
212 わらないとお答えになったこの 3 つをお受けしますと 52.3%、18.5%と 29.9%と 3.9%ですので、  
213 52.3%、約半分の方はその自治体にはそれほどこだわらないと回答された方になります。ではそ  
214 の一番左側の、希望する自治体でなければならないという方は、どこの市町村を希望されている  
215 かというところで、仮の町の設置場所の希望と、集計したものがその下のグラフでござい  
216 ます。こちらやはり圧倒的にいわき市と回答された方が多いのですけれども、先程の 9 ページ、仮の  
217 町の希望と順番が変わってきております。いわき市が多いのはどちらも同じなのですけれども、  
218 そのこだわりを持たれる方は南相馬が次に多いと、先程ですと郡山が 2 番目、南相馬が 3 番目だ  
219 ったのですけれども、この 2 番と 3 番が逆転している。福島市が 4 番目、先程の仮の町の設置場所  
220 の希望では 7 番目だったのですけれども、こちらでは 4 番目と、数が全体的にこれだと少ないので  
221 すけれども、順位が変わっているという傾向が見られます。

222 続きまして右側のページでございまして。今度逆に仮の町に住まないという方についてお聞きし  
223 た問でございまして。仮の町に住まない場合に、今後のお住まいを今の場所のままで継続されるの  
224 かそれとも市外に転居されるのかというところをお聞きしたものでございまして。こちらのグラフ  
225 でございましてけれども、一番多いのが今の居住先、お住まい、こちらで継続して暮らしたいとい  
226 う方が 36.4%でございまして。次、緑色と青く囲ったところでございますけれども、どちらも今の  
227 住居から引越しをしたいという方でございますけれども、薄い緑色の方は現在、居住している市

228 町村の中で引越をされたいという方、青の方は、その市町村の外に引越をされたいという方で  
229 ございます。両方合わせますと、引越されたいという方は 28%、3 割弱ということかと思いき  
230 れども、今の場所のままというのが 4 割弱、引越をされたいという方が 3 割弱、まだ現時点では  
231 判断できないという方が 3 割程いらっしゃるという結果でございます。この中で現在居住されて  
232 いる市町村の外へ引越されたいという方に対して、どちらの市町村を希望されるかというところ  
233 を聞いてございます。この中でも先程の仮の町の傾向と同じように、やはりいわき市、こちらが  
234 3 分の 1。その後南相馬、郡山、福島という順番になってございます。

235 この結果ともう 1 つ合わせたものが 12 ページになるのですが、今の 11 ページのところ  
236 今の避難先にそのまま継続して暮らしたいという方と、それから今の住居から引越をしたいけれ  
237 ども今の市町村内という方は、今後住まわれる場所は今の市町村ですので、現在の避難先の市町  
238 村を集計する。今の市町村の外に引越しをされるという方については、先程申しました 11 ペ  
239 ジの集計結果、これを合せたもの、これを 12 ページの上を書いてございます。ですので、仮の  
240 町に住む意向が無い方が今後どちらに住まれることを希望されるかというところを集計したも  
241 のが 12 ページの上のグラフになります。こちらですと、いわき市は 3 割弱、福島、郡山、南相  
242 馬という順番になってございます。先程申しました現在の避難先というのは、2 ページ目のとこ  
243 ろで聞いてございますけれども、そちらと集計をしたものになってございます。同じく仮の町に  
244 住むおつもりがない方に対して 12 ページの下のところではその理由をお聞きしております。こ  
245 ちらが 12 ページの下でございまして、仮の町に住むつもりはない理由、こちらでも複数  
246 回答でございますけれども、お聞きした結果がこちらでございます。上位 4 つがちょっと多くな  
247 っておりまして、まず 1 つ目が仮の町の時期が分からない、いつできるか分からない、そこに対  
248 する思いから住むつもりはないと、あとはこれからご自宅を買うつもりだからという方も約 3 割  
249 ということで同じぐらいの方がいらっしゃいます。また同じ 3 割ぐらいの方が今の避難先に慣れ  
250 てしまったから、もう仮の町に移り住まないというご回答されています。あとは、若干数字は下  
251 がるのですが、4 分の 1 ぐらいの方が、一緒に住むことにそれほど魅力を感じないと、仮  
252 の町の要件としては町民と一緒に住むというところでお示ししておりますけれども、それに魅力  
253 を感じないというご回答もございました。

254 仮の町は以上でございまして、続きまして右側のページでございまして、将来的な避難  
255 指示が解除されたときの双葉町への帰還意向について聞いてございます。こちら調査票の方はい  
256 ろいろな戻りたい条件やそれから戻る、戻らない、それから判断できないところを組合せ  
257 て、お聞きしている設問でございまして、それを集約した結果がこちらになっております。  
258 この中でもはっきりと、すぐに戻りたいとお答えになった方は、10.3%、約 1 割の方という結果  
259 になってございます。一方で、そもそも戻りたいと思わないという方が 3 割と、一番右から 2 つ  
260 目の紫でございまして、戻るために自宅の修復や再建、あとはインフラ等、避難指示が解除される前提条件でございまして、こ  
261 ういったものが整備されればすぐに戻りたいという方が 28.4%と、そういった条件を整えればという方も  
262 合わせますと、だいたい 38%、39%くらい、4 割弱の方がどちらかと言うと戻る意向がある方とい  
263 うふうに言えると思います。ただ、まだ現時点では判断できないという方も 26.9%、3 割弱の方  
264 がいらっしゃるという状況でございまして、左から 2 つ目の条件を整えれば戻りたいという方に対し  
265

266 てどういう条件が必要かというところをお聞きしているのがその下のところございます。こちら  
267 の回答は3つまで丸を付けていただいておりますけれども、一番はやはり放射線量が十分低くな  
268 るというところをご回答された方が4分の3くらいとなっております。この放射線量十分低くな  
269 るというのはどういうレベルかというところをさらに聞いておまして、それがその四角の枠の  
270 下のところのグラフでございますけれども、例えば自宅周辺だけなのか、双葉町の主要な市街地  
271 なのか、それとも双葉町全域なのか、山林や田んぼ含めて全域なのか、それぞれ年間1m Sv以下  
272 なのか、20m Sv以下なのか、というところ含めて、その低くなるというのがどのレベルなのかと  
273 お聞きしたのがその下のところでございます。こちらでは全域が1m Sv位下というところの回答  
274 をされた方が半数強ということで非常に多くなってございます。少し戻りまして、この帰還意向  
275 等でございますけれども、こちらの方で年代別に集計したものがその下のところでございます。  
276 一番上のグラフを年代別に分けたのがこちらでございまして、全体的な傾向としましては、すぐ  
277 に戻りたいという方が年代とともに増えていくという形でございますけれども、ただ一方で、30  
278 代の方が戻らないという方が40%程と、ちょっとここだけが傾向としては高くなっていると、  
279 先程も申しましたとおり、子育て世代なのかというところかと思えます。

280 続きまして、ページめくっていただきまして、14ページでございます。同じく双葉町への帰  
281 還に当たっての必要となる情報をご回答いただいております。複数回答ですので、全体的に丸の  
282 制限を付けておりませんので、全体的に高い数字になっておりますけれども、全て必要だとおっ  
283 しゃる方が非常に多いということかと思えますけれども、特にその中でも多いというのはそのイン  
284 フラ等の復旧、そういう時期の目途、というところが7割です。それに続いては、賠償金の額、  
285 こちらを確定させなければならないと、あとは放射線量や原発の安全性というところが続いており  
286 ます。あとは中間貯蔵施設というところで、放射線に関連するところが常時3番目から5番目、  
287 あとその後に並んでいるという状況です。先程のところに戻らないと答えた方に対して、今度は  
288 戻らないと考える理由を起こしたのが14ページの下グラフでございます。この中で一  
289 番多いのが時間かかると思われるからと、帰還までのその時間から、戻らないと回答された方が  
290 6割強と、非常に多い。次2番目と4番目は、放射線、原子力発電所ということですが、  
291 2番目は放射線量に不安があるから、3番目が現在の家、避難されている中で、かなりの破損・  
292 劣化等をしている状況というところで、今住める状況に、その時には住める状況にはないだろう  
293 からというところで答えを回答されている。その後、原子力発電所の安全性に、不安があるから  
294 という順番になってございます。こちらが半数以上の方が答えられた主な理由となってございま  
295 す。戻らないと答えられた方に対して、今仮設であったり、応急仮設であったりとかそういった  
296 仮の住まいにお住まいだと思っております。そこから転居される時期の判断というところを次で  
297 お聞きしております。

298 その時期は、どういう時期で判断されるかというところを15ページの上のグラフで書いてご  
299 ざいます。この中で一番多い答えが真ん中の水色のところになるかと思えますけれども、受領す  
300 る賠償の額が確定する、その時点が転居時期を判断する時期というふうにお答えになっておりま  
301 す。一方で次に多い答えが左側の薄い緑色でございますけれども、まだそういう時期は決まってい  
302 ないという方もいらっしゃるということでございます。その戻らないと決めておられる方に対  
303 して、今後生活していく中で求めておられる支援、こちらを複数回答でお聞きしております。特



304 上に4つが、非常に答えが多くなっておりましてけれども、その戻らない中でその双葉町に残って  
305 いるその土地、建物等、こういった財産管理、こちらへの支援がほしい。あとは、町から離れて  
306 も継続的な情報提供がほしい。それからあとは新たな移転先でも住宅の再建、住宅に関する支援  
307 がほしい。あとは健康、こちらにも継続的な健康管理を実施してほしい。こちらが非常に多い回答  
308 でございます。

309 最後のページでございますけれども、町立の学校の再開と、あとは自営業の方に事業の再開に  
310 ついてお聞きしてございます。双葉町立の小中学校、こちらが再開されれば、そちらに通わせる  
311 かどうかというところをお聞きしたところでございます。一番左側、こちらが、仮の町に学校が  
312 できれば転居して子どもを通わせると答えられた方が10.5%、どこかで仮の町に限らずどこかで  
313 再開すればそこに転居して通わせるという方が1.3%、避難先の近くで双葉町立の学校が再開さ  
314 れれば子どもを通わせるという方が8.7%、この3つを合せると、おおむね20%ぐらいかと思  
315 われます。一方でその再開は必要ないというお答えの方がその紫のところの40%となってお  
316 るのですけれども、まだ判断できないという方も4割近くいらっしゃるという結果でございます。  
317 あと最後でございますけれども、自営業の方に対して事業の再開、こちらの意向を聞いておりま  
318 す。ここでは、仮の町ができれば再開したいという方は5%、仮の町ではなく自らの避難先で事  
319 業を再開したいという方が2.5%、再開ということではこの2つでございます。あとは再開する  
320 予定はない、他の職業を見つけるという方は15.7%、あとはすでに再開されている方も9%、一  
321 方でその非常に多いのはまだ判断できないというところでなかなか今の状況の中では再開の目  
322 処は立たず、判断できないという方が多いということになっているかと思えます。調査結果の資  
323 料の説明は以上でございます。

324 【三井所 清典 委員長】

325 真鍋専門調査官どうもありがとうございました。それでは、町の方から補足いただけますか。

326 【事務局 駒田 義誌】

327 企画課の駒田です。今程復興庁の方から、調査の概要についてご説明いただきましたが、これ  
328 をさらに委員会の方の審議で活用するために、国の方にもお願いして、さらにこれを少し仮の町  
329 の部分であれば、今住んでいる場所との関係でありますとかもう少し詳しい分析をしたものを整  
330 理して、委員会の審議に活かしていきたいというふうに考えております。補足をさせていただきます。  
331

332 【三井所 清典 委員長】

333 どうもありがとうございました。速報ということで、昨日公開されたデータを、40問の質問  
334 中の30問について問いの答えの直接的な分析、整理、一次整理というもので残っているものも  
335 あります。それから、属性、問いと問いの関係でもう少し詳しく見ていくという分析がこれ  
336 から必要ということでございました。何か印象などございますでしょうか。感想いかがでしょ  
337 うか。

338 【木幡 敏郎 委員】

339 私も同じ本当にため息つきます。これが本当の避難している人たちの気持ち。やっぱりこれか  
340 ら考えていくことは、とにかく早くスピードをもってやって欲しい。判断をするにもいろいろな  
341 この条件が達成されてないというかな。それについてまず、ここから出た課題をどういうふうに

342 やっていただけるのか、ということを取り組んでいただきたいと思います。

343 【三井所 清典 委員長】

344 ありがとうございます。2 ページの下の段に 3 番、現在の状況というのがあって、避難先の  
345 バーチャートがございますけれども、左から 3 つ目、6.9%というのがございますが、これは上  
346 の方に福島市と書いてあるところと繋ぐといいんじゃないかと思えます。

347 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

348 申し訳ございません。こちらセルが抜けております。この 6.9%は今福島市にお住いの方の割  
349 合でございます。

350 【三井所 清典 委員長】

351 感想とかご意見とかございませんか。

352 【藤田 博司 委員】

353 藤田ですけれども、今木幡委員がお話されたようにやはりスピーディにしなければ、だんだん  
354 と町民の考え方が変わっていくなというのを実感しました。それで、いわき市のところが非常に、  
355 移り住みたい、仮の町云々と出てますけれども、あそこのいわき市というのはやはり自分たち双  
356 葉町に住んでいる者にとっては学校でそちらに通っていたとか、あるいは就職先がそこだとか、  
357 やはり自分たちの双葉町の生活基盤の一部にもなっているわけですよね。あともう 1 つは、いわ  
358 きというのは、気象的にも浜通りの温暖な地ということで、そういう点から、今後こういうよう  
359 ないわき市に仮の町なり、そこに住みたいとかというようなご意見の方がいっぱいいらっしゃる  
360 んだろうと思います。学校の問題などにもありましたけど、今、広野町でしたか、町に学校をつ  
361 くって、そのところにバスで子どもたちをいわき市内から皆さんを連れて行って、教えて、ま  
362 た返してやるというようなこと、広野町だと思うのですけれども、うちの双葉には学校を建てる  
363 ことは今の所、当然無理なんで、やはり学校は早めに作らないと、次から次と双葉町そのものの  
364 本筋というか、それが薄れてしまうのではないかと、そういうふうに考えますので、まず学校を  
365 つくって、それで、いわきの方が大分多いようなので、そういうところに早く手を打った方がよ  
366 いのではないかというふうに思いました。以上です。

367 【三井所 清典 委員長】

368 ありがとうございます。

369 【荒木 幸子 委員】

370 荒木と申します。今、藤田委員の方から有り難い意見をいただいたのですが、学校関係者とし  
371 ては、仮の町に学校をつくったとして、転居して子供を通わせるというのが 0 だったらどうしよ  
372 うというのが正直私たち校長 3 人で心配していた内容です。ここの部分が 10.5%。そして、双葉  
373 町の学校がどこかで再開されれば通わせたい、それから、自らの避難先の近くでというのをあわ  
374 せると、20%。せっかく 20%の方々が学校再開を望んでくださっているという状況にあるので、  
375 一刻も早く戻らないという方向に行ってしまううちに、そして 37.6%の方がまだ判断できな  
376 いという方が双葉の学校に戻れるように再開を急いでほしいと思います。未来の双葉を支える子  
377 どもたちをなんとか双葉中、双葉北、南小学校というところで学ばせる方向で早くスピード感  
378 もって進めていただきたいと思います。そしてこの 8 ページには、30 代の方々が、仮の町に移  
379 り住むまでに待つことができる期間が 2 年以内とおっしゃっています。とても学校としては 2 年

380 以上は待ってもらえないのではないかと思います。若いお母さん世代の方々はとにかく急いでい  
381 るということをおの辺からも読み取っていただいて、一刻も早く進めていただきたいと、これを  
382 見ながらさらに思いました。よろしくお願ひします。

383 【三井所 清典 委員長】

384 とにかく学校の開校だけは早くというご意見がこの委員会でもございました。16 ページの方  
385 を、最後のページの表を見ながら課題のお話でございました。

386 【松本 浩一 委員】

387 松本です。今、学校の話が出ましたので、付け加えますけれども。小学生で、双葉南小と北小  
388 を合わせて 300 人強いたと思います。今も区域外就学とかでそのくらいいると思います。今、荒  
389 木校長からあったように、もし 20%の人がこのアンケートの通り、来るとすると 60 人の小学生  
390 ができるということになります。ということで各学年 10 人ずつくらい来るんじゃないかという  
391 計算になるので、案外、他の町村で、学校再開しているところの子ども数が少ないのに対して、  
392 割と多いという実感をおのアンケートから私は読み取っております。ですから、荒木校長の付  
393 け足しになりますが、早い再開が望まれるというふうにお考えております。さらに、まだ判断でき  
394 ないということは迷ってらっしゃる方もいて、ということに読み取れると思います。以上です。

395 【三井所 清典 委員長】

396 どうもありがとうございます。

397 【西内 芳徳 委員】

398 西内です。このアンケートの相対的な感想なんですけど、非常に細かくて素晴らしいと思ひ  
399 す。ただ、人の考えというのは随時変化はつきものですから、半年に 1 回とか、1 年に 1 回とか  
400 あんまり設問を変えずに継続していただけるのかどうか、その辺を確認したいと思ひます。

401 【三井所 清典 委員長】

402 貴重な質問だと思います。よろしくお願ひします。

403 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

404 今のご質問でござひますけれども、今回はアンケートとらせていただきましたけれども、今後  
405 もどういふ形かまだ決まっておひませんが、引き続き意向調査はさせていただきますでござひま  
406 す。

407 【三井所 清典 委員長】

408 気持ちは、本当に変わっていくと思ひますので、刻々と把握していくということでしょうかね。

409 【清水 修二 委員】

410 清水です。今回の調査でわからないのは、双葉町の町民の数が今後どうなるのかということ  
411 す。つまり戻らないという場合に、双葉町民でなくなるという選択をお考えているのか、双葉町民  
412 であり続けながら、双葉に戻らないというふうにお考えているのか、この区別がつかない。15 ペ  
413 ージを見ますと、双葉町に戻らないで、今の避難先からの転居時期の判断で一番多いのが、賠償  
414 額が確定していないということですよ。だから賠償額が確定した段階で判断するという人がい  
415 るように思ひますね。これは、要するに賠償にケリがつけば、住民票を移すというふうなニュ  
416 アンスを感じるんです。双葉町の住民の数がどうなるのかということは、双葉町にとって非常に重  
417 要なことであって、半分になるとか、7 割ぐらひになる、それはわかりません。極端な場合には

418 数分の1になってしまうかもしれない。そうなった時には、自治体としての財政規模も一気に収  
419 縮するわけであって、町の存続に関わってくる訳であって、だから戻らないということの中身で  
420 住民票どうなるのかということが実は重要なファクターだというふうに思うんです。今回は、そ  
421 ういうのを一応置いて調査したということかもしれませんが、いずれ問題になってくるのかなと  
422 私は思います。

423 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

424 今、ご意見頂戴いたしましたことでございますけれども、確かに今回の調査に関しましてはあ  
425 くまで仮の町の意向、そこを中心として聞いてございますので、戻らない方に対してどのような  
426 ことをしていくか、というところにつきましては今後の課題ということで認識はしてございまし  
427 て、対応は検討していきたいと思っております。今回の調査ではまだそこまでは踏み込んでいないというところでご理解いただきたいと思います。

429 【木幡 敏郎 委員】

430 素朴な質問です。戻らないという方の話もわかりましたが、15 ページを見ても、戻らないと  
431 言いながら、まだ決まっていないという考えの方もおります。その条件づくりとか、それはまた  
432 今後、変わる可能性もあるのかなと思って聞いている。ですからやっぱり仮の町、いろいろそ  
433 の先々の話もあるでしょうけれども、仮の町がどういう町になるのかということなのかなと。そ  
434 の辺をやはりできるだけ、希望に沿ったようなまちづくりが必要なかなと思います。

435 【三井所 清典 委員長】

436 とても大切な気持ちだと思います。ありがとうございます。

437 【宇杉 和夫 委員】

438 私は、同じことなんですけれども、その前に6割ですよ。ですからあと4割はいるわけですよ、  
439 現実に。調査する前に、現状の把握ができれば、大体の属性がわかると思うのですが、ま  
440 ず4割の人と6割の人との関係というのがどうなるかということもあるかなと。

441 【三井所 清典 委員長】

442 皆さんのために、何ページの表を見ながらということなのか。

443 【宇杉 和夫 委員】

444 回答率です。59%で、4割について全く、全体について全然ご説明がないものですから。

445 【清水 修二 委員】

446 それはしょうがない。

447 【宇杉 和夫 委員】

448 その人たちは、このアンケートの土台で、もう除外するかということと関係すると思えますけ  
449 れども。あと、先程清水先生のお話もありました、これからの方向についてすごく関係すると思  
450 うのですが、早急にいろいろなものを決めるよりはまだ、このデータを基にして、十分に分析し  
451 てから、早急にそういう方向を考えたいと、私はそう思います。例えば、14 ページ、双葉町に  
452 戻りたいと思わない理由というのがありますけれども、帰還するのに時間が掛かるとか、放射線  
453 量に不安があるとか、上の3つは、戻りたいですけど、けど戻れないということなのですよ。ね。  
454 そりゃ戻りたいと思わない理由というのは、戻りたいけど戻らないという方に入るんです。その  
455 他に同じようなのはいくつかありますけれども、挙げているとちょっとキリがないので。よろし

456 くお願いします。

457 【三井所 清典 委員長】

458 最初に、真鍋専門調査官の方から。

459 【復興庁 真鍋聡専門調査官】

460 今ご質問等 2 点いただいたかと思うのですけれども、まず 1 つ目の回答率 60%程というところ  
461 ろで、その全体の属性とどう違うかというところですが、なかなか難しいところかと思うのです  
462 けれども、例えばその、1 ページ目の下の所で、年齢構成がございますけれども、私の方で国勢  
463 調査、2 年前に行っておりますけれども、22 年度、ですから 2 年ちょっと前でございますが、そ  
464 の時の双葉町の年齢構成と比べますとほぼ同じような傾向を示しているのではないかと。若干 10  
465 代、20 代の方が少なめ、国勢調査の結果ですと、10 代、中学生以上、10 歳 11 歳の方を除いて  
466 あと、2 年経ってますので、年齢 2 歳足して、集計してみたら 18%ですので、ここは割合として  
467 は低めになっていますけれども、当時の国勢調査で今、30 代になっておられる方が、12.6%です  
468 ので、ほぼ同じ。次に 40 代も 11.1%でそれもほぼ同じという形で、抽出としては、実態の双葉  
469 町民の方の傾向に近くなっているのではないかというふうに思います。あと、比較する所がなか  
470 かないので、上の男女もほぼ同数といいますか、もともと双葉町の男女の比率が男性が 49%  
471 で女性が 51%ですから、若干女性の回答が多くなっていますけれども、そういうところで、6 割  
472 というのは、万遍なく抽出ができていいのかと。この 2 つしかないんですけれども、あるのかな  
473 とは思っています。あと、もう 1 つ、例えば戻らないとか回答されている方についての戻るとい  
474 う可能性ある中での回答ではないか、ということでございますけれども、確かにおっしゃる通り  
475 でございまして、なかなか条件であるとか、判断できるものがない中でやむを得ず、戻らないと  
476 回答された方ももちろんいらっしゃるというふうには私どもも思っておりますので、なるべく早  
477 くそういうところを判断できるような形でご提示できるような環境を整えていきたいと思っ  
478 ています。抽出の件ですね。

479 【宇杉 和夫 委員】

480 ちょっと 1 点だけ。例えば、一般の市民のアンケートなんてことがあれば、10%であればいろ  
481 いろなやり方で、解決はあり得るとあると思うんですよ。こういう場合には、10%というのは、  
482 ここは 6 割にもなっているから、かなり全体を把握できると言えるかどうかってことをまず答  
483 えてほしいわけです。たぶんそうでない条件があるんじゃないかということが想定されるからで  
484 すね。私の場合には、答えてない人とここにある人たちとの属性が少し違うんじゃないかとい  
485 うことで、それが同じであるということであればいいんですけど。

486 【三井所 清典 委員長】

487 これからの相関分析がでてくると、少しそういったものもわかってくるかと思えますね。2 ペ  
488 ージの下の方で、県内と県外がほぼ最初に避難場所を確保されたと認識されている数と合ってる、  
489 県外だから返事が来てないとか、そういうことでもなさそうですね。2 ページですけど、よろ  
490 しいでしょうか。他にございますでしょうか。町の方から補足ございますか。よろしいですか。

491 【井上 一芳 委員】

492 今の 2 ページ、三井所委員長からお話いただきましたので、福島県内が、54.3%という数字で  
493 ございます。町でも今把握しているのが、県内が 53.6%になってございます。したがってこのデ

494 ータを見たときに、県内比率で1%までもくるってない、と。先程、三井所委員長おっしゃられ  
495 たんですが、データについて、県内・県外比率についてはほぼ同じように出たのかなど。最初の  
496 年代構成が先程、復興庁からもフォローしていただいたように、ほぼ近い数字が出ているので、  
497 サンプルとしては活用できるかなというふうに思ってます。

498 **【鈴木 浩 副委員長】**

499 全体の感想と、それから1つだけ教えてほしいのは、7ページのところに大きなテーマでいく  
500 と当面の生活拠点の条件と書いてあって、7ページのタイトルは双葉町への帰還までに住みたい  
501 住居の所有形態・建て方となっていますよね。その中で、持ち家を買おうというのが、43.8%、  
502 ものすごい数なんです。これは、その文字通り双葉町の帰還までの間持家にするというふうに、  
503 その通り捉えていいんでしょうかね。帰還するまでの間、帰還できたら、この持家を買うけど、  
504 帰還するという前提で彼らは捉えているというふうに見ていいですか。

505 **【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】**

506 今のご質問でございますけれども、7ページの所の帰還までというところで、持ち家が多いの  
507 ではないかというところかと思えますけれども、おそらく、2つあるかと思えますけれども、ま  
508 ず1つは、その先程結果の報告の中にもありましており、双葉町に戻らないと決めていらっし  
509 ゃる方もおられますので、その方も含めてこちらに回答されているというのも1つあるかと思  
510 います。もう1つは、当面今の避難の期間がなかなか見えない中で、もう家を買ってしまわれて、  
511 それで、戻るときに売却されて、戻る人もいる、そういったことも考えられるのではないかと、  
512 その2つの意向が合わさった形でここは持ち家という形ででているのではないかと。その他のと  
513 ころとクロス集計等とってないので、ここの単独の集計だけですので、想像でしかないんですけ  
514 ど、そういう形の分析で今後していきたいというふうに思っております。

515 **【鈴木 浩 副委員長】**

516 たぶんそういうふうに理解しなければいけないなと思うので、他の条件とクロスをすると回答  
517 通りの分析ができると思うので、後程お願いしたいと思います。それから、もう1つは、私は全  
518 体に思ったのは、先程この調査がどういう目的で行われるかといった時に、仮の町構想につい  
519 ての一定の方向付けというか住民の意向を捉えたいからだという説明をされましたよね。それで私  
520 自身がついできてしまうと、ここから読み取れるのは、双葉町の人たちもそうだし、我々も、  
521 私自身も浪江町でやったときもそうなんですが、仮の町構想については、それ自身が極端に高い  
522 期待を持っていないということ、はっきり言えるんです。私たちがどういうふうに思ったかとい  
523 うと、なぜ仮の町だとか町外コミュニティを考えたかという、仮設住宅だとか、みなし仮設が、  
524 年限が区切られている。その次の段階の例えば、町に戻れる期間はそれよりもさらに間がある。  
525 その間をどうするんですかという話なんです。その時に仮の町というのは、ある程度安全で、  
526 安心できるような居住形態や、今の仮設住宅よりはよりましな隣近所との付き合いができるよう  
527 なそういう条件を改善しましょうという程度で出発して、その時に、受け入れ自治体側の条件が  
528 あるのだから、あんまり自分の町を極端に、その双葉町の町そのものが移るといものを浪  
529 江町では考えてこなかった、と言う辺りをどういうふうに双葉町の場合は、仮の町のイメージを  
530 高めていくか、具体化するかということは重要なんだけど、そこのところを考えようとすると、  
531 まだ読み切れません。ただ、仮の町に対する期待はそれほど大きくないというのは、それは

532 どこも一緒です。その時の仮の町の構想はどうしたらいいかということを一歩突っ込まないと、  
533 仮の町の構想を具体化できないかなと、今後の課題だなというふうに思ったので。それが全体の  
534 感想です。

535 【事務局 駒田 義誌】

536 所有形態の今後の住居の希望のところなんですけれども、1点補足すると、この設問をする  
537 ときに聞き方として、前提が1つあって、双葉町への帰還が可能となるまでの間に相当な時間を要  
538 することが想定される中、帰還が可能となるまでの間に生活する住居として、どのようなものを  
539 希望しますかと聞いているので、相当な時間が掛かるということが、たぶん回答されている方の  
540 頭の中にあるので、持ち家という選択肢も出てきたのではないかなという風に思われます。以上、  
541 補足します。

542 【三井所 清典 委員長】

543 応急仮設住宅あるいはみなし仮設住宅から出た次の生活の場をどういうふうに双葉町の町民  
544 が、準備して、というのは、前回の時に最初の5年間をより詳しく検討をして、安心して安全な生  
545 活のためにどういうことを考えていくかということを進めなければならない、というような方針  
546 が出ておりました。鈴木先生のご指摘はその所をしっかりと考えなくちゃいけない。このアンケー  
547 トでは必ずしも方向が見えていないというか、そういう趣旨でないとする問題が少しあるので  
548 はないかという指摘と、そこをしっかりとやれよというご指摘だったと思うんですけど、やろうよ  
549 ということですよ。

550 【木幡 敏郎 委員】

551 仮の町で、井戸川町長がパブリックコメントを出しましたよね。あれの考えがすごく印象があ  
552 って、アンケート来たときにそのような仮の町ができるならいいなと、井戸川町長が出されたパ  
553 ブリックコメントありますよね。

554 【鈴木 浩 副委員長】

555 すいません。どんな内容なんですか。僕は全然知らない。

556 【木幡 敏郎 委員】

557 仮の町という私たちが考えているイメージと、私も何か所か7000人の復興会議に出たときに、  
558 仮の町なんていないという意見もあったんですよ。でもやっぱり仮の町のとにかくみんなの話を  
559 聞きたいということでやったんですよ。でも、アンケートの中で、期待していないというの  
560 は、皆さんそれぞれ時間もかかるし、国も遅い。そういう中で、仮の町ってどういうふうなもの  
561 なのかというその期待が見えなくなって、ちょっと変な言葉でいえば、失望に変わってる場所  
562 が見えるのかなと私は感じます。学校も人が集まらなかったら、多少バスで送り迎えしたとして  
563 もそれは実現できないのではないのでしょうか。やはり人が集まる場所にないと、実現できない  
564 のではないのでしょうか。確か、最初のパブリックコメントは、そこに役場があり、病院があり、  
565 商店街があり、いろいろな施設があると出ていました。だから、これは国有地とかそんなような  
566 所の、やはり大きな所でないといけないのではないかという思いをしながら、国はどこまでそう  
567 いう考えがあるのか。今、各受入れ町村の考えもいろいろありますよね、まとめて受ける所とか。  
568 でなかったら、単に集合住宅の中で双葉町の人たちが住む、そんなふうな姿にしか捉えられない  
569 のかなというふうに思うのですが。ですから仮の町という言葉がちょっと一人先走りしたのかな

570 と思いますけれど、どのようなことを国は考えてるのでしょうか。この仮の町で予算は付きまし  
571 たけど。単なる集合住宅ですか。

572 【三井所 清典 委員長】

573 あとの質問はここで考えることですね。井戸川町長の当初のパブリックコメントというのは、  
574 少し内容に触れられたのかと思ったんですけども。

575 【事務局 駒田 義誌】

576 補足します。第1回の時に、復興への道というパブリックコメントのご紹介はしましたけれど  
577 も、この意向調査をするときにでも、仮の町の設問の前にここでの設問での仮の町のイメージと  
578 いう念頭に置くものを提示しています。それは、復興への道に書いていることを、簡潔にして書  
579 いています。その中で書いているのは、多くの町民が1ヵ所に集まって生活しているということ。  
580 あとは、様々な住宅が整理される中で、学校や病院、商店街、オフィス、工場、農場など、町が  
581 本来持つべき機能はできるだけ集約されているということ。あとは、多くの町民が1ヵ所に集ま  
582 ることで、町の文化・伝統・コミュニティが維持されるということ。これが、前の復興への道に  
583 書いていた中身になるのですけれども、一応それを踏襲する形で、今回の意向調査の中では仮の  
584 町の設問の前にそこを枠囲みの形で、説明する文書に入れた上で調査はさせてもらっています。

585 【三井所 清典 委員長】

586 木幡委員の質問のご趣旨、それがこのアンケートに影響しているのではなかろうかという話でご  
587 ざいました。今の課長の話から言えば、影響はしていると思えますよね。7000人の復興会議の  
588 中では、いろいろな会話をしていく中で、なかなか1ヵ所に多くまとまるといのではないだろう  
589 という意見はたくさんでましたし、この委員会でも核になるようなところがあればいいかな  
590 と。でもそれは他に、あるまとまりのところは複数できるのではないかとか、私なんかは、ある  
591 まとまりといった時に、10所帯、20所帯ぐらいのまとまりも、まとまりというんですかね、と  
592 いうような発言をしたこともありまして、思いがそれからいろいろ広がっていったらいいま  
593 しょうか、そういう人もいるんだというふうに思います。ただ、アンケートの表紙にそれがあつた  
594 というので、イメージが影響しているというのがあるのでしょうか。今後、いろいろ配慮しな  
595 がらこの委員会で検討していくということになると思います。

596 【宇杉 和夫 委員】

597 仮の町がどういう形になるかということは大変に重要というお話と、今後の検討だというお話  
598 もありましたが、このアンケートが端緒についた段階で、本当に、仮の町のあり方を1ヵ月とか  
599 で組み立てられるのかなという、なかなか難しいのかなという不安もあります。ですから、それ  
600 ともう1つは、仮の町が8ページの一冊45.5%について多いわけですが、もう1つはその仮の  
601 町ができて仮の町に住むつもりはないという人たちの、簡単に言えば、仮の町に住まなくても  
602 いい人たちに対しての対応を考える、この委員会も、仮の町を考える委員会とすれば、これから  
603 始まるようなところもあるんですけども、その前の段階からと、私は、思っているんですが。  
604 また、それと仮の町以外の人たちのことも考える委員会とすれば、この42.8%、繰り返しますけ  
605 れども、その14ページで帰還するには時間かかることと放射線量に対する不安から、そこに本  
606 当に戻りたいんだけど、戻れない人がいるわけですね。その人たちについてその15ペー  
607 ジで具体的にどうするか、というところを補償の問題からこういう方向にすべきと振り分けると



608 いう問題以外のものが相当あるんじゃないかと。帰還するまでに時間がないけれども、やはり戻  
609 りたいということがあって戻れないということが、さっき言いましたけれども、単に住宅があっ  
610 て、学校があって、生活再建ができたという以外の、そういう思いがちゃんとないと双葉町のこ  
611 れからの地域の再生はできないかな、というふうに思いますので、要は、今 8 ページの緑 45.5%  
612 については、仮の町どころというのは大変重要だということとそれを本当にこれからうまく考  
613 えられるのかなということ。あとは、42.8%もやはり、まだ答えてない 40%もいますが、その人  
614 たちについての問題をどう考えるかというのも、この委員会の基本的な課題なのかなというふう  
615 に思います。

616 【三井所 清典 委員長】

617 どうもありがとうございました。8 ページの上の方の表で、現在では判断できないが、仮の町  
618 の具体的な姿が示されれば、移り住むことを検討したいというのが、45.5%が全体としてありま  
619 す。その隣の藤色のグラフ、仮の町ができて仮の町に住むつもりはない、こちらの方も仮の町  
620 のイメージをある固定的に持っていて、どっかの大きな町ができるとすれば、私はそこには行か  
621 ない、別の町に住みたいという話かもしれません。そして、両方とももう少し具体的なイメージ  
622 が出されれば、たぶんこの緑の色も藤色も変わってくるのではないかと、ということであると  
623 すると、この委員会の役割、とっても大きいと。3月の末からあるいは4月に全国かもしれませ  
624 んけど、この委員会から発信する方針というのが、また双葉の町民、人々にかなりこれとは違っ  
625 た反応を示すようなことが出てくる可能性があるということだと思います。

626 【岡村 隆夫 副委員長】

627 私から付け加えさせていただきたいことが。この委員会の中では少しは見えてきている人たちが  
628 多くなってきていると思うんですけども。ただ、いろいろな町民の方々の意見をかいつま  
629 んで聞いてみますと、やはり仮の町がいつどこでどういうものにとというのが我々より読めてない、  
630 見えてない、知らない、そんな感じなんで。ここで先程出た待てる期間はという話になるとやっ  
631 ぱり 2、3年というところがあります。そうすると、仮の町なんてもっともっとあとだよとい  
632 うことで、この帰らないという数字に繋がっている部分があるんじゃないかと。そういう意味でこ  
633 の委員会とそれからこの結果が町として早くこういう問題を整理していかなければいけないの  
634 かなと、そういう感じを私はしてます。以上です。

635 【藤田 博司 委員】

636 2、3日前ですが、東京に住んでおられる 60 くらいのご夫妻とちょうど一緒になってお話した  
637 んですけど、その奥さんは今ノイローゼ気味なんだというんですよ。前は農業やってたんですけ  
638 ども、とても周りに農業する人がいないと、非常に困っているんだという話をされていきました。  
639 私はその人が全てという、町民の全てではないんですけども、そのように非常に困っている方  
640 が、いっぱいいらっしゃると思うんですよ。それで、この仮の町を魅力ある町にすれば、さっき  
641 西内委員の方からもお話しましたけれども、そこに住みたいというような希望がでるような素晴  
642 らしい仮の町を作らなければ、ただ、人が入ればいいんでしょうみたいなそういうなのを作って  
643 たんでは、とてもじゃないが、行こうと思ったけれども私は行きませんよという方が多いと思う  
644 んですよ。逆に、魅力ある町ができれば、こちらにしようと思ったけれどもやはり仮の町に行っ  
645 てそこで自分たちも生活しようというふうに心が変わって来るかと思います。その条件としては、

646 やはりスピーディにまずやるということと魅力ある町は、どういうふうなのが魅力ある町なのか、  
647 そういふのを自分たちが、集約して、それでこの早くつくっていただきたいというのが私の考  
648 えです。

649 【三井所 清典 委員長】

650 どうもありがとうございました。他にございませんでしょうか。それでは、このアンケートと  
651 いうのは、データの審議をする上での限界だとか質問の数の限界とかで、いろいろご質問やご  
652 意見いただいたような問題がアンケートにはあるかもしれませんが、おおまかな意向の把  
653 握というのはある意味でできると。

654

655 (2) 7000 人の復興会議における町民の意見・提案のとりまとめの報告について

656 【三井所 清典 委員長】

657 それに対してもう 1 つ、双葉町では、7000 人の復興会議ということで、住民一人一人からお  
658 話を聞きとるといふような調査を、このアンケートに先だつて行いました。12 月 20 日くらいま  
659 での気持ち表れているものでございますけれども、議事の 2 番目でございますが、その 7000  
660 人の復興会議における町民の意見と議案の取りまとめということに関してご報告をお願いした  
661 いと思います。

662

663 【事務局 駒田 義誌】

664 では、企画課長の駒田から資料 3 をご説明したいと思います。

665 「7000 人の復興会議」における意見というのが、昨年、年末までに各地のワークショップな  
666 ど開催して意見をまとめてまいりました。その成果というのは別紙 2 ということで 520 ページを超  
667 える冊子をお配りしておりますけれども、こういう形で数多くの意見というのがまとまりました。  
668 今日はその概要の報告というのをさせていただきますと思います。

669 まず資料 3 の 1. 「7000 人の復興会議」の趣旨というのがございますけれども、「7000 人の復  
670 興会議」といいますものの位置付けであります。復興まちづくり計画をこの委員会で策定する  
671 に当たりまして、町民の皆様の意向というのを十分に反映された計画とするために、この委員会  
672 の審議と並行して、町民のご意見、ご要望を広く集めるということを主眼に行つたものになりま  
673 す。後程ご説明しますが、別紙で 500 ページにも及ぶような意見が出てきたように、多種多様な  
674 示唆に富む数多くのご意見、ご提案をいただきました。こういったご意見、ご提案というのは先  
675 程住民意向調査でアンケートの形での意見を整理してご報告が行われましたけれども、それでは  
676 なかなかとれないような内容がかなり含まれています。そうしたことから、この網羅的な意見が  
677 ある住民意向調査の結果に加えて、「7000 人の復興会議」で得られた多様な意見・提案というの  
678 を分析する、整理することで、様々な状況に置かれた町民の皆様のご意向を把握することが出来  
679 るようになったのではないかと考えております。本日は年末までに出てきた意見を整理したもの  
680 のご報告でありますので、さらに分析・整理して、今後の委員会での計画案の審議に生かしてい  
681 いただきたいと考えております。

682 「7000 人の復興会議」、具体的にどういふふうによつたのかということでございますが、2.  
683 に書いております通り、昨年の 8 月に初回のワークショップをやりまして、1 月にかけて、まず

684 ワークショップ形式の会議、2番目として、インターネットによる投稿サイトを作る形で、イン  
685 ターネットの投稿を募集する形、あと3番目として、「まちづくりマイノート」というものを町  
686 民の皆様にお配りしまして自由意見を書いていただく形と3つの方法を用いて、行いました。そ  
687 の結果、延べ1,110名のご参加をいただき、6,563件のご意見をいただきました。一人当たり5.9  
688 件というカウントになります。この延べで1,110人の中には、当然複数回参加している方もいら  
689 っしゃいますが、総体といたしましては延べ人数ということで、報告をさせていただきます。ま  
690 ずワークショップ形式の会議ということで、対面で意見を話し合う場でございます。こちらにつ  
691 いては、述べ565名の町民の方にご参加いただき、3,510件の意見がございました。ワークショ  
692 ュップ形式の会議につきましては、大きく2種類の会議をやっております。広域を対象とした会議  
693 というので、全8回。8月19日の福島市を皮切りに、12月16日の東京に至るまで、全8回  
694 の会場で広域を対象とした、これはいわゆる復興会議という形で行ったものになります。2ペー  
695 ジにおめぐりいただきまして、それ以外に細かく地域単位の会議ということで、受託事業者のエ  
696 コエナジーラボ社だけではなく、福島県の関係NPOの方にもご協力いただきまして、福島県内  
697 であれば、「うつくしまNPOネットワーク」、埼玉県内であれば、「ヒューマンソーシャルハーモ  
698 ニー研究所」という所のご協力もいただきまして、小さなグループ会議というのを行いました。  
699 この回数は延べ22回という形になっています。例えば、福島県内であれば、10月22日の福島  
700 市のさくらの仮設を皮切りに、各仮設住宅の集会所、また会津若松、南相馬ではきずな情報ステ  
701 ーションという、うつくしまNPOネットワークが県から受託をして、スーパーマーケットで、  
702 避難先の自治体の情報を掲示しているコーナーがありまして、そういうコーナーでも、実際に双  
703 葉の人をお呼びして、意見交換するような場を設けたりもいたしました。またさらに、借上げ自  
704 治会や白河婦人会でのヒアリングなどを行って、そこから意見を集めました。茨城県内につきま  
705 しては、つくばを中心に行っておりました。また、埼玉県内におきましては、こちらの加須の騎  
706 西高校、また大宮、所沢、あとは加須市の避難者支援サロンというところでも、話し合いの場を  
707 持ちました。合わせて東京でも2回小さな話し合いの場を設けて、やってまいりました。

708 こういった対面で意見を出し合う場のほかに、4ページになりますけれども、インターネット  
709 会議ということで、昨年9月から「みんなでまちづくり」というホームページを立ち上げまして、  
710 1月21日で一度集計はしておりますが、その中で申し上げますと、ホームページへの参加の登  
711 録があった町民の方が66名、そこから投稿された意見、これは専門家のコメントとかは除きま  
712 して、町民としての意見という形で出てきていますのは、957件でございます。

713 あとは、「まちづくりマイノート」ということで、昨年配布いたしましたまちづくりマイノ  
714 トが回収されております。479冊返ってきておりまして、2,096件の意見を整理しております。  
715 このうち、高校生以下の子どもの意見というのが全部で、これは子どもさん専用の紙を配っ  
716 ているものもありますけれども、それを含めまして55、そこから複数の意見をバラす形で整理  
717 して、意見の数としては、72件という形で子どもさんからも貴重な意見をいただきました。

718 その意見の概要を6ページ以降に、簡単に整理をしております。本来だったらこの500ペー  
719 ジの意見一つ一つが貴重な重要な生の声だと思うのですが、時間に限りがありますので、少し整  
720 理をした形のもので、ご説明させていただければと思います。こちらの整理につきましては、復  
721 興まちづくり計画を今後考えていく上で重要な論点となるものを中心に抽出しておりますが、さ

722 らに詳細な整理をこれからしていきたいと思っております。

723 まず大きく1つ目として、復興への想いという形で整理をさせていただきました。それは別紙  
724 の冊子でいうと、1ページから36ページにかけて記載をしております。この中には大きく2つ  
725 あります。復興への想いということと、帰還の見通しということがあります。復興への思いとい  
726 うことでは、「ふるさとを失いたくない」また、「町民が一つになる」また「人間としての復興を  
727 まず手助けして欲しい」、「1日でも早く元の双葉町に戻して次世代につなげたい。」また、「一人  
728 一人が幸せに暮らしていけることが復興である」といった、町民の一体性、また人としての復興  
729 といったところでの思いというのが伺えます。また帰還の見通しということで、「いつ帰れるの  
730 かをはっきりしてもらいたい」ということ。一方で、「帰りたいという思いは分かるけれども、  
731 現実的に実現することを考えていかななくてはならない」という現実的な意見というものもござい  
732 ます。

733 あとは、2つ目として、住みたい場所ということで、これは別紙2でいうと、37ページから  
734 100ページに至るまで数多くの意見がございます。この住みたい場所につきましては、「1日も早  
735 く仮の町をつくって欲しい」という意見が数多くあった一方で、「仮の町は希望しない」という  
736 意見も複数見られております。また「安全に、安心して子どもが暮らせる町」と言ったご意見が  
737 ありました。7ページ目、仮の町の形態という意味では、「できれば双葉の人と一緒に集まって住  
738 みたい」という意見。一方で、「1つの場所に集まるというのは無理があるので、複数個所を選ん  
739 でほしい」という意見。また、仮の町の位置付けとして、「町に帰る前提で早く作って欲しい」  
740 という意見もあれば、「帰還のための中間地点というのは仮の町ではない」という意見が出てお  
741 ります。また、仮の町を今後選んでいく条件としては、「放射能がない」ということ、また「気  
742 候風土の条件がいいところ」、「交通の便がいいところ」といった意見が出ております。また、仮  
743 の町の機能という面で見ますと、「復興公営住宅を早く作ってほしい」と言う意見。また、「住居、  
744 仕事、福祉といった、生活のパッケージというものがなければいけない」という意見。また、「何  
745 もない所につくるというのではなくて、既存の町、町の中で、点在して住民が移り住んだ方が仕  
746 事、商業も揃っていて生活がしやすい」という現実的なご意見。またそれに関連する話として、  
747 「自活できる方は自活していただき、それが難しい方のための支援を優先して考えるべきで、学  
748 校・病院というのはその地域のものを利用させていただき、あまり大がかりな投資にならないよ  
749 うに、一方で弱者の方が利用しやすい施設を作っていくべきではないか」というご意見もありま  
750 した。さらには、「畑や田んぼと言ったものを提供してほしい」また、「子どもを遊ばせられる公  
751 園というのを整備して欲しい」といったご意見がございました。また、住環境という面では、先  
752 程のアンケートにもありましたけれども、「やっぱり一軒家がいい」、「低層の建物がいい」とい  
753 う建物の要件の他に、やはり「住居プラスデイサービスといった機能面、サービスを支えるよう  
754 な住環境」また、やはりご高齢の方からのご意見が多くございますので、「エレベーターとか、  
755 高齢者長屋といった高齢者への配慮」、また意見としてあったのは、「既存の公務員宿舎などを利  
756 用して、新しく建てるのではなくて、リノベーションによる住まい整備」。また、住宅について  
757 「機械的な仕様は止めて、ニーズに応じて対応して欲しい」といったご意見が出ております。ま  
758 さに先程言ったような、仮の町の具体的なイメージを作っていく、計画を作っていく中では、先  
759 程のアンケートだけではなくて、ここで得られた「7000人の復興会議」の様々な提案をこれか

760 ら整理して審議に生かしていく必要があると考えています。さらに仮の町に住まない町民への支  
761 援ということでも意見がありまして、やはり仮の町へ移れない人にも、やっぱり支援は必要では  
762 ないか、またこの町で生活していても、町民としての支援をお願いしたいというご意見があり  
763 ました。

764 次、3番目、仕事・産業についてということで、こちらにつきましては、別紙2というものの、  
765 101ページから119ページに意見が掲載してございます。2つに大きく分けると、まず雇用の  
766 確保・働きやすい環境という面と、生業の再開・新たなビジネスという観点、2つの観点で整理  
767 をしました。まず前者の雇用の確保という面では、やはり「若者の仕事」という一方で、「中高  
768 年の仕事というのも配慮して欲しい」という意見。また、女性の立場からして、「保育とか育児  
769 との両立が出来る環境を」といったご意見がありました。また、「生業の再開、ビジネスの創出  
770 という面では、双葉町の人がいるところで事業を再開したい」また「事業再開を目指す人に仮設  
771 の工場・事務所といった施設の提供をして欲しい」という意見、また「これから双葉町で、これ  
772 までの町の名産品を復活させていきたいんだ」という意見がございました。

773 あと、教育につきましては、別紙2の120ページから134ページに個別の意見が整理して掲  
774 載してございますけれども、1つは学校の再開・存続という意見が強く出ております。「出来るだ  
775 け早く再開して欲しい」また「学校の再開は町の復興のシンボルである」という意見、また町の  
776 教育の在り方として、「町独自の教育ビジョンを作ってほしい」という意見、また子どもの教育  
777 環境・子ども同士のつながりといった面では、「未来の双葉町出身の子どもたちが、やっぱり十  
778 分な教育が受けられるサポート体制を整備してほしい」また「生まれた時に町民だった子どもた  
779 ちのネットワークが欲しい」といった意見。あと9ページの上から4つ目になりますけれども、  
780 「これから放射線や原子力などの安全に関わることも子どもに教えていって欲しい」と、ま  
781 た「双葉や相双地方の歴史や文化なども教えていって欲しい」といった意見が出ておりました。

782 9ページ目の⑤医療・福祉という点につきましては、別紙2の135ページから150ページにか  
783 けて、掲載してございます。この中では、町民の健康管理という面でのご意見として、やはり「今  
784 後健康上の問題が多発する可能性が大きいというので、フォローが必要だ」という意見、また「双  
785 葉町から自殺者が出ないような対策をしてほしい」また「老人が孤立しない環境をつくる」、こ  
786 れらの2つの対策としては、苦しんでいる人の負担を和らげる策として、「話を聞く、顔を見に  
787 行く、とこういったことを考えていくべきではないか」という提案がありました。あとは医療・  
788 福祉サービスの確保という面では、「病院・介護施設といった施設整備」のご意見、また今も原  
789 発避難者特例法で福祉については受け入れ自治体をお願いをしているところですが、「十分な運  
790 用がされていない」、「自治体間の温度差がある」というご意見がありました。

791 9ページ目の下になりますが、避難生活については様々なご意見がありまして、151ページか  
792 ら251ページと、かなり多くいただいております。これを見ますと、避難生活の現状という面  
793 では、やはり不安の声、数多くございます。あとは「原発の事故でみんなバラバラになってしまっ  
794 たという、家族、友人と離れ離れになってしまった」という気持ち、こういった意見を数多く寄  
795 せられています。また賠償の問題が数多く出ております。「出来るだけ早く賠償をしてほしい」  
796 と、「賠償、補償なくしては先に進めない」という意見が複数出ております。あとは住居の改善  
797 ということで、委員会でもしばしばご意見いただいております、「仮設・借上げ住宅の入居期限

798 の心配]、「仮設の制度の見直し」といったご意見は復興会議の中からも出ております。避難生活  
799 の改善・負担軽減といった面では、「高速道路の無料化の継続」、また、今行われている「医療費  
800 の無料化の措置の継続」といった負担軽減措置の継続のご要望というのが出ております。

801 あとは双葉町のこれからの復旧・復興についてということで、これは別紙 2 の 252 ページから  
802 274 ページに意見が出ております。大きく分けると、当面の土地利用の在り方ということで、  
803 やはりこの部分では、一時帰宅のご要望が数多く見受けられます。「一時帰宅の際に使うトイレや滞在施設の整備」という話、「あとは道路の補修をして欲しい」というご意見、また「お墓  
804 参りだけは何とかできるように改善をして欲しい」というご意見、また「屋敷周りや田畑の草刈  
805 りをして荒廃を防止して欲しい」。また、それに関連して、「家の保全をお願いしたい」というご  
806 意見、また「一時帰宅を簡単にして欲しい」という希望がある一方で、「防犯の強化」といった  
807 ご要望があります。あとは「町の状況を、写真や動画で見ることが出来ると、帰れなくても、町  
808 の姿を見せることが出来るのではないか」というご提案がありました、また津波で被災された方  
809 にとってみましては、「津波で被災した土地を買い上げて欲しい」というご意見が出ております。  
810 続いて町の将来の復興に向けた取組ということで、まずは、やはり「元の所有物に対して補償し  
811 てもらえるのであれば、更地にして除染してもらった方がいいのではないか」という提案。また  
812 産業という面では、「バイオエタノールなど、新しい産業を除染と結びついて開拓していく必要  
813 があるのではないか」また「海岸沿いに太陽光発電基地をつくって、それを拡大していったらど  
814 うか」というご提案がございました。

816 あとは放射線の影響について、これは別紙 2 の 275 ページから 301 ページにかけてご意見が  
817 出ております。1 つは放射性物質の低減ということで、やはり「事故前の放射線のレベルになら  
818 ないと子どもたちを連れて帰れない」というご意見、情報提供という面で「放射線量の正しい広  
819 報」、また「詳しい汚染地図が必要ではないか」、また原発の安全性の懸念ということでは、「安  
820 全に帰れると言われても、原発の処理が安全に進むかどうか信用できない」というお気持ちが寄  
821 せられております。

822 また除染・中間貯蔵施設については、別紙 2 の 302 ページから 334 ページにかけてございま  
823 すが、「除染をしっかりして欲しい」、「除染技術の開発を急いで欲しい」というご意見。その一  
824 方で、「除染の効果に疑問がある」というご意見があります。また中間貯蔵施設につきましては、  
825 「この施設が、中間貯蔵施設がなければ、除染が進まない」という意見、一方で「中間貯蔵施設  
826 は双葉町に作って欲しくない」という意見、双方出ております。

827 あとは情報の共有・コミュニティの維持という面では、335 ページから 353 ページにかけて載  
828 せておりますが、町民の交流機会の確保という点では電話帳のご意見、「またタブレットを貸し  
829 出してくれればいいんじゃないか」というご意見、「町民のふれあえる場、人が集まれる場を設  
830 けて欲しい」というご意見、また町からの情報提供という意味では、「町からの情報が入手しに  
831 くい」ということ、あとは「少し動画なども交えてホームページを情報集約型のホームページに  
832 していくべきではないか」というご提案、また避難先の住民との交流ということで、「避難先で  
833 の横のつながりであるとか、地元の方も輪に入れたコミュニティを作りたい」というご意見があ  
834 りました。

835 語り継ぎたい双葉町の暮らしということで、これは 354 ページから 380 ページにかけて掲載

836 しておりますが、双葉町の暮らしということで、「海や川、自然に恵まれている」であるとか、「空  
837 気がおいしい」、「気候が温暖で過ごしやすい」、「食べ物がおいしい」、「人と人との交流がある」、  
838 「人情があり近所付き合いがあった」といった双葉町の暮らしについて語り継ぎたい、語り継い  
839 でいくべきということが挙げられています。

840 また、残したい歴史・文化ということで、こちらは 381 ページから 394 ページにかけて掲載  
841 しておりますが、「ダルマ市、野馬追、標葉せんだん太鼓など歴史・伝統・文化について継承し  
842 ていきたい」というご意見。また継承の方法として、「記録や映画に残していくことが必要では  
843 ないか」、また、例えば意見としてあったのは、「今までの双葉町に戻るのに 100 年かかる、こう  
844 いった町があったことを残す施設があるべきだ」という施設の話、あとは「伝統芸能や、町民大  
845 会は継続して行ってほしい」という話。あとは事故の教訓の伝承ということで、「事故は忘れて  
846 はならない」ということと、そのための「教育、またこの体験をきちんと後世に継承していく必  
847 要がある」というご意見がありました。

848 あとはその他復興会議の運営等に関する意見が 395 ページから 492 ページに載っております。  
849 例えば復興会議でのご意見としては、「町のやることに無駄が多い」、「労力と費用の無駄遣い  
850 はないか」というご意見、また国・県への要望を見えますと、「町の復興は国の責任でしっか  
851 りやって欲しい」、また「町から県、国への要求をちゃんとまとめてやるべきだ」というご意見。  
852 また町の運営体制について、「早く町の方向性を示して欲しい」というご意見、また今後の町づ  
853 くりの体制としてあるのは、「若い人の意見を取り入れた町にして欲しい」という話、また「若  
854 い人や熟年のリーダーに期待をして、町民が一致協力した新しいまちづくりに邁進したい」、ま  
855 た「専門分野に精通した町の人を募って多くのポジションで活躍して欲しい」、また一方で、「双  
856 葉町に住民票がない人でも双葉町に関わりたいと思っている人はいるので、もっと声をかければ  
857 そういう人が集まるのではないか」、「そういった情報が欠けているのではないか」というご意見。

858 あとは、⑭に子どもたちからの意見ということで、先程寄せられた子どもたちの意見。これは  
859 493 ページをお開きいただくと、実際子どもたちから直筆で寄せられた意見を掲載しております。  
860 一部、個人名が解ってしまうものはこちらで加工させていただいておりますが、基本、子ども  
861 たちがどういう想いで、文章を書き、また絵にして出てきているのかということ、493 ページ  
862 から最後のページにかけて掲載しております。これは本来なら全て読み上げてお話したいぐらい子  
863 どもたちの気持ちがたくさんこもっている意見でございますが、時間にも限りがあるので、一部  
864 紹介をさせていただくと、例えばこの概要に載せさせていただいた意見でいうと、例えばありま  
865 すのは、504 ページを見ていただくと、お子さんの意見として、「双葉が大好きだ」と、「どこの  
866 県よりも大好きだ」と、「だから負けないでみんなで応援していくんだ」、という思いもあります  
867 し、あとは 1 つ前の 503 ページになりますけれども、「双葉は元気ですか」、ということで、「皆  
868 さん双葉に帰りたいですか、私も帰りたいです、一方で、けれども騎西の友達や先生と離れたく  
869 ありません」、といった気持ちが出ています。こういった子どもたちの意見が出ています。「双葉  
870 町のいいところは、みんなが優しい」という意見。後ろの方の絵を見ていただくと海の絵がたく  
871 さん出ていたりします。「双葉町の一番の思い出は海の花火です。とてもきれいだったから」と、  
872 書いてありました。少し高学年になると、「双葉町はいつに復興し、帰れるのだろうか」と毎日思  
873 っています。1 日も早く復興させて帰れるように考えてほしい。」といった意見が出ております。

874 子どもたちからも数多く非常に印象深いものが残っていますが、主要なものをご紹介させていただ  
875 きました。説明は以上です。

876 【三井所 清典 委員長】

877 随分時間が経ってまいりました。今の説明、先程のアンケートとは違って、大変なエネルギー  
878 をかけて直接、町民一人一人の思いや意見が聴取されております。大変エネルギーがかかってお  
879 りますけれども、ちょっと無駄なのではないかという意見も入ってございましたけれども、これは  
880 普通ならやれない、大変貴重な調査が進んで、今日のために、ざっと整理したものが皆様のお手  
881 元に届いたということでございます。別紙の 525 ページにわたる大量のデータがございます。こ  
882 れはじっくり読んで、この委員会の中で町民の気持ちを汲み取って、ご発言をいただきたいと思  
883 います。要望もございましたけれども、今日は時間がないのでアンケートの紹介とします。たぶ  
884 んこれは皆様じっくり、読み込むことが重要かと思しますので、これを今日お持ち帰りになって  
885 見ていただければと思いますが。感想やご意見をどうぞお願いいたします。

886 【鈴木 浩 副委員長】

887 先程私、説明が不十分だったかもしれません。宇杉委員も言いかかてたんですけど、私が強調  
888 したかったのは、仮の町というのは復興過程におけるメニューのワンオブゼムです。これに全部  
889 託すのは危険過ぎます。いろいろな意見があるように、全国あちこちへ避難して、そこでの生活  
890 再建を考えておられる人もいます。そんな生活に対する支援はどうするんでしょうかね、というの  
891 が一方であるわけで、仮の町というのは、そういったことがなかなか出来ない人たちに対して、  
892 先程から言われているように仮設住宅とかみなし仮設の期限が切られたときに次の段階を用意  
893 しようというツールだと私は思っていました。その時には、さっき言ったようにバラバラではま  
894 ずい、今までよりましな生活が出来る、教育環境も今までよりいいものができるこういうことが、  
895 仮の町だと思っているので、今この意見を聞いても、全国にバラバラになっている人たちが、仮  
896 の町以外でどうやって生活していったらいいのか、その時の支援は何があるのか、ということ  
897 を求めておられる人がたくさんいるということをしすくい上げないと、復興というのが、将来の目標  
898 像、こういう仮の町や将来の姿を描くだけじゃなくて、避難生活がめちゃくちゃ長くなること  
899 がはっきりしている。これが原発災害の深刻さですよ。ここのところをみんなで共有して、メ  
900 ニューをたくさん用意してあげることが必要だと思います。その根本的な制度として昨年 6 月に子  
901 ども被災者支援法という法律が制定されましたけれども、何も動いていない。それは何故かとい  
902 うと、その中の基本方針が復興庁で定められないからです。もし定められれば、この制度をもっ  
903 と有効に活用して、ぜひ頑張っていたいただきたい、ひとえの望みです。

904 【三井所 清典 委員長】

905 ありがとうございます。全般のアンケートも含めてご意見、時間がありませんが感想など。

906 【宇杉 和夫 委員】

907 先生と同じなんですけども、相当なメニューがありますけれども、それを時間的に区切って、  
908 段階的にやらないといけないということで、1 つまったものをどこかでやるということではない  
909 と思います。とにかく今までお話してきたように、学校の問題については、まず早急に何かをし  
910 ようということがあれば、全体のビューが見えなくても、出来るところからやるという形も仮の  
911 町の 1 つの仕組みがあるというふうに私は思います。



912 【三浦 善憲 氏（木村 真三 委員代理）】

913 木村真三の代理で来ました、彼の上司の三浦と申します。獨協医科大学で教授をやっております。  
914 三浦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。皆さん何か仮の町とか何か言ってるけ  
915 れども、実際にここの場所が仮の町ですよ。この役場のある場所が。そして、現在役場が、支  
916 所が福島の支所とこっち。2カ所あるわけですよ。だから、そういうところを基本として、ここ  
917 をもう少し広げてどういう形で持っていくかということ、やった方がいいんじゃないかと思  
918 います。具体的にまず、どういうふうにしたら次のステップに行けるのか。もう1つは、先程言  
919 ったように、言われてましたけれども、なんか全国の方に、いろいろなところに行っている人た  
920 ちはたくさんいます。そこに親戚を求めた人もいれば、自分自身である程度裕福な方はそっちを求  
921 めて行っている人もいます。けども、中には放射線が嫌いで、できたら沖縄まで、いろいろな  
922 場所まで、九州まで行っている人たちもたくさんいますけど。けど、今現在福島とか、或いは  
923 この界隈に住んでいる人たちをまずどうするのか、そういう人たちを基本として、まずどうい  
924 う形で1つのものを作り上げるのか、ということが始まった方がいいのではないかと思います。1  
925 つの例として、北海道の炭鉱の町がありますよね、潰れた。夕張。あそこが今、新しい、ものす  
926 ごく若い市長の下で1つの町づくりが始まっているんですよ。今までそこではいろいろな住宅  
927 があって、前には炭鉱の人たちがたくさん住んでいた所にみんなが住んでいたけれども、みんな  
928 がいなくなってしまうと、1人、2人、3人とか、それを1つのものとして、1カ所につけてみん  
929 なを集めて、そこから今までの、一人一人の人たちが集まって、そこでまた何かを始める。み  
930 んなが集まったらまた店を作ろうとか、いろいろなものが出て来る、なんかそういうふうな、1  
931 つの全国の中でいろいろな例としてあるんじゃないかな、と。そういうものをやはり取り上げて、  
932 僕自身代理で来ましたんで、あんまり突っ込みませんが、そういうことでお願いできれば  
933 と思います。

934 【三井所 清典 委員長】

935 どうもありがとうございます。どこから始めるかというような視点と、連鎖をしながら、町  
936 が充実していくというのをイメージしていけばいいんじゃないか、というご指摘ではないかと思  
937 います。よろしゅうございますか、感想。この別紙の圧倒的な力を感じますが、これを受け止め  
938 て、委員会に活かすということが、これを無駄にしないことだと思います。

939 【藤田 博司 委員】

940 いろいろなご意見もあろうと思いますけれども、応急仮設住宅は2年が少し延びたとか、また  
941 借上げ住宅にしても大体それに準ずるとかどうのこうのというので、まだ自分たちも、生活して  
942 いる者に対する、今のところはどうしてもそこで安心して暮らせるような状況でないことは確か  
943 なんです。それで、先程三浦先生がおっしゃいましたけれども、ここも仮の町だろうというお  
944 話ですけども、私としては仮の町というのはある程度きちんとした町の形態をなすようなところ  
945 を作っていただきたいと思っています。それで、この間、仮設住宅、応急仮設住宅で自治会長  
946 やってらっしゃる方のお話だと、「朝どこかで洗濯機を回すとその棟、全部音が響き渡るんだよ」  
947 というようなお話もありました。私のその話を聞くまではそういうことは全然頭に入っていませ  
948 んでしたけれども、そういう過酷なところで生活しておられるわけです。あと、先程私が「魅力  
949 ある仮の町を作ってください」とお話ししましたけれども、私たちは一戸建ての家で、庭もあつ

950 て、畑もあって、そういうような双葉町で暮らしてきたわけですよ。ですから、それに少しでも  
951 近づけるような、一戸建ての家があって、隣りの声が聞こえないで、何かしてもね。それであと、  
952 畑、或いは庭に小さい草や花や木とかを植えて楽しむ、そうした心豊かにできるような、そうい  
953 う魅力的なもの。それであとは、そここのところで生活するのに、何不自由なくとは言いませんけ  
954 ど、不自由のないようないろいろなことをやって、魅力的な仮の町を作っただけであれば、そこ  
955 のところに集まるんじゃないかなというふうに私は考えています。それであと、仮の町に行かれ  
956 ない人、いろいろな関係でおられると思いますけれども、現在その、福島県からこちらに来てい  
957 る、ということをサポートするのに、福島県と埼玉県の、ふくたまだよりという、そういうよう  
958 な形で支援をやっているグループがございまして、私もその下の方で少し歩かせてもらっている  
959 んですけど、そここのところの一応ネットワークをして、ここの避難所に居られる方は別ですけど、  
960 それ以外の方の少しでもお助けになればな、ということで、回って歩いているんです。福島県か  
961 ら、みんなとんでもないところまで行ってる人もいる訳ですけど、本当に一人一人に手を差し伸  
962 べるといのは、なかなか地元の方々の協力とか、あるいろいろなことがあろうと思いますけ  
963 ど、そこら辺をみんなで助け合えられるような組織も作っていくことも大事じゃないかと思っ  
964 ています。以上です。

965 【三井所 清典 委員長】

966 ありがとうございます。

967 【高野 泉 委員】

968 このアンケート、住民意向調査を見て、本当になるほどと思ったのです。やはり双葉町の方が、  
969 双葉町だけではありません、福島県民もそうなんですが、やはり放射線量が高いから、双葉町、  
970 福島県から出て行くのですよ。会社が倒産して人口が減った、だからもう一度町を再開しよう  
971 と言っても、これはまた環境が違う。あの 24 年度の人口動態調査も、1 月 29 日の新聞で発表にな  
972 りました。これを見ると福島県は、転出者が転入者を 13,800 人強上回る転出超過になって、こ  
973 れは全国第 1 位になった訳です。それまた分析した、年齢層別を見ると、0 歳から 14 歳までの  
974 子どもとそれから親世代、いわゆる 25 歳から 44 歳までですが、その転出者 13,800 人のうち半  
975 分、約 7,000 人が含まれている訳です。ということは、放射線量が高い、年間 1 m Sv 以下にでき  
976 ないから、みんな双葉町、福島県から出て行くのです。ですから、何よりも第一第二原発ありま  
977 すけれど、4 号機でも使用済み燃料があるわけです。安全だという保障がない。それから福島県  
978 の皆さんが帰られるようにするには放射線をいかに早くなくすか。でないと、学校を作ろうと言  
979 っても、今年の新入生、浪江町でゼロですよ。学校を作ってもなかなか集まらない。校長先生二  
980 人も委員でいます。、松本さんも言われた通りですけれど、やはり戻れるようにするには、放射  
981 線を少なくしていく努力を国・県と一緒にやっていかないと、住民、県民は戻っていかない。こ  
982 れははっきりと言えらると思うのです。そこをこれからの課題としていかないと仮の町を今後どこ  
983 に作ろうと言ってもなかなか難しい問題ではないかと。このアンケート、意向調査を見ると、な  
984 るほどなという感じがいたしました。

985 【三井所 清典 委員長】

986 時間が過ぎましたけれども、最後に、どなたかありますでしょうか。それでは、今日は 2 つの  
987 アンケート速報という形で皆様のもとに届きました。意向調査のアンケートは量がたくさん、6

988 割近い意見、アンケートの結果が回収されて、アンケートの性質ですから、分析しやすい分析に  
989 なっていくと思います。一方、「7000人の復興会議」では、人の気持ちがあふれるように出て、  
990 いろいろな、様々な意見が出ているんですけども、これは質に絡む内容でないかというふうに思  
991 えます、両方の調査があって本当に良かったのではないかとふうに今思っているところなんです  
992 が、今日はこれで終わりにいたしますけれども、この7000人の復興会議の意見は、じっくり読  
993 んでいただいて、アンケートの方は相関分析、クロス分析が出てまいりますので、両方をベース  
994 に会議を進めさせていただきたいと思っておりますけれども、リンカーンの言葉じゃないですが、町民  
995 の復興計画、町民による、町民のための復興計画というのを、この委員会で出来るようにしてい  
996 きたい、町民の声がたくさん集まっておりますので、これを踏まえて、しっかりとした計画が出  
997 来ればよいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

998 【木幡 敏郎 委員】

999 この計画はまとめる段階行くんでしょうけど、私は国のやっぱり考えもそこに入れてもらいた  
1000 いと思うんですが。無理と言っては、この計画はスピードを要すると思うんですよ、皆さん。少  
1001 しでも遅ければそれだけますますみんなの心がバラバラになってしまう。そういう意味ではこれ  
1002 をまとめる段階は町の計画でしょうし、しかし町の計画と同時に国・県の、やっぱりフォローが  
1003 無かったら、これは実現できないんですよ。我々はこれまで1年ぐらいかけても。そういう意味  
1004 では計画には、国・県の1つの方向みたいなもの付け加えるべきではないかなと思っております、委  
1005 員長どうですか。

1006 【三井所 清典 委員長】

1007 県や国には、町民のこういう願いを込めた復興計画を本当に強くぶつけていくと言いますか、  
1008 訴えていくということがまずベースとなって、それで国や県がどう答えてくださるか、というの  
1009 が問題だと思いますので、初めに方向を示されると、町民の意思でないことも起きてきます。そ  
1010 ういうことを考えるなら、願いをまずまとめて、意思をまとめて、国との調整ということに、県  
1011 と調整ということに入らせていただきたいというふうに思っています。途中で打診していく、町  
1012 も先生方も出来るだけ情報を捉えながら、ご発言いただくことになるかと思っております。気持ちは分  
1013 かりました。

1014  
1015 (3) その他

1016  
1017 3. 閉 会

1018 【三井所 清典 委員長】

1019 今日はどうもありがとうございました。これで終わります。

1020  
1021

以上

# 第9回双葉町復興まちづくり委員会座席表

(敬称略)

岡村 隆夫  
三井所 清典  
鈴木 浩

1 日時 平成25年2月6日(水)

全体 13:00~15:00

2 場所 双葉町埼玉支所 4階家庭科室

復興庁 真鍋 聡 専門調査官	(関係者)	高野 重紘	清水 修二	駒田 義誌	相楽
		高野 泉	宇杉 和夫	事務局	橋本
福島復興局地域班 鈴木 伸彦 参事官補佐	(関係者)	吉田 岑子	(代理) 三浦 善憲	平岩 邦弘	西牧
福島復興局企画班 安保 広訓 主査		井上 六郎	藤田 博司	井上 一芳	吉野
福島県 避難地域復興課 安斎 浩記 総括主幹兼副課長	(関係者)	岩元 善一	齊藤 宗一	高野 憲一	事務局 小松
(代理)税務課 志賀 公夫 課長補佐		遠藤 直敏	木幡 敏郎	武内 裕美	中川
生涯学習課 今泉 祐一 課長	(関係者)	松本 浩一	西内 芳徳	大住 宗重	根本
		荒木 幸子	鵜沼 友恵	渡辺 勇	事務局 森
			渡邊 ゆかり	山下 正夫	
				(代理) 渡邊 英之	事務局